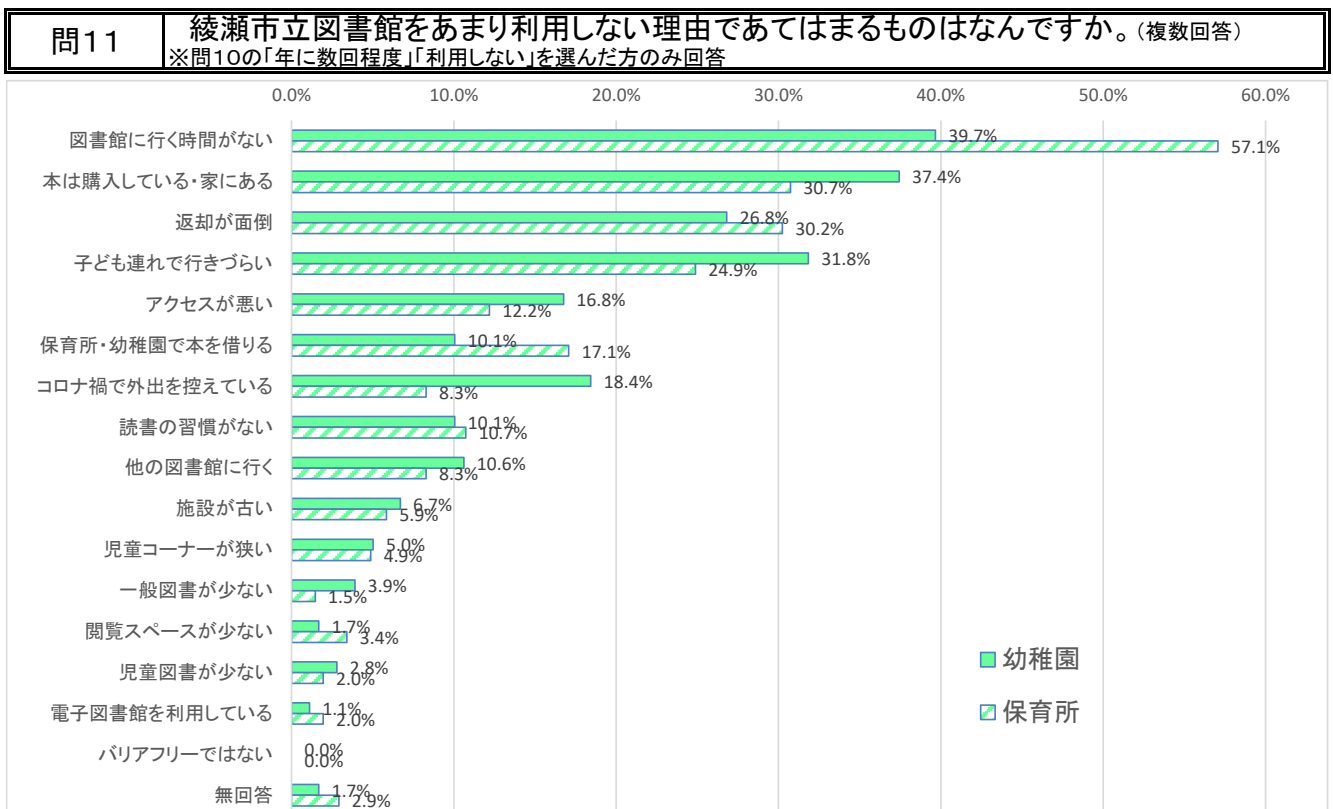
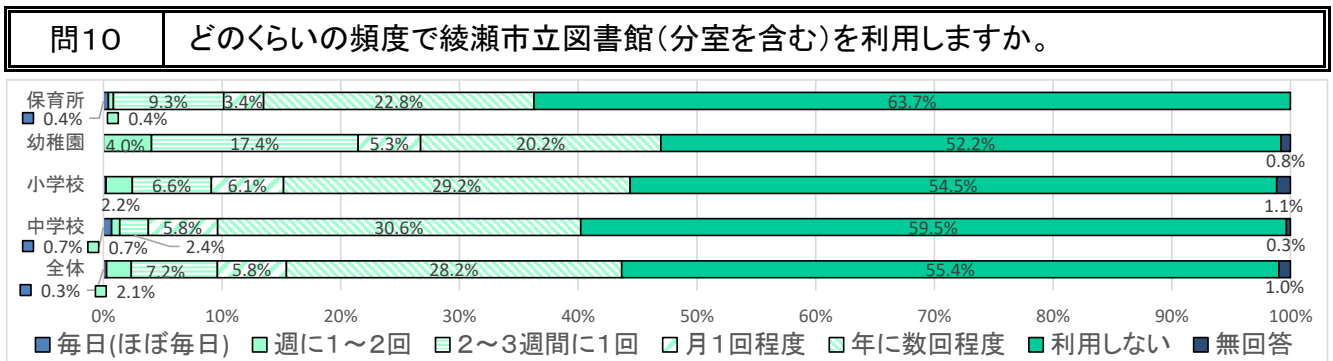
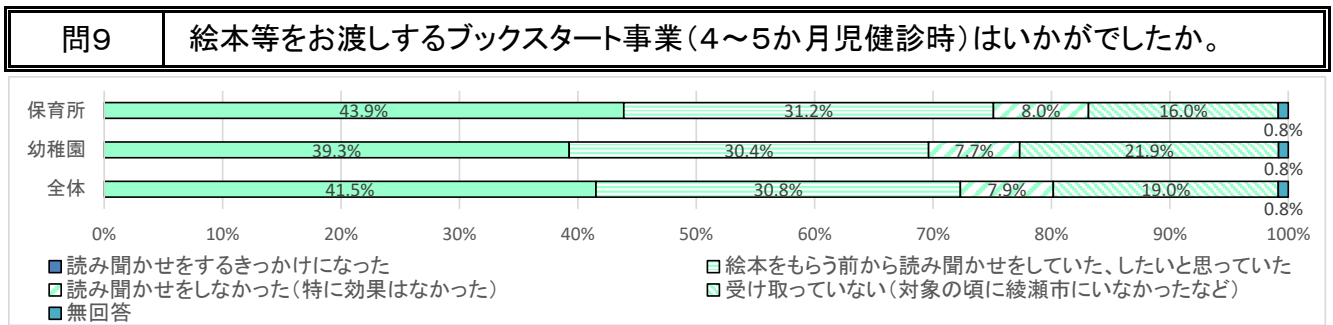
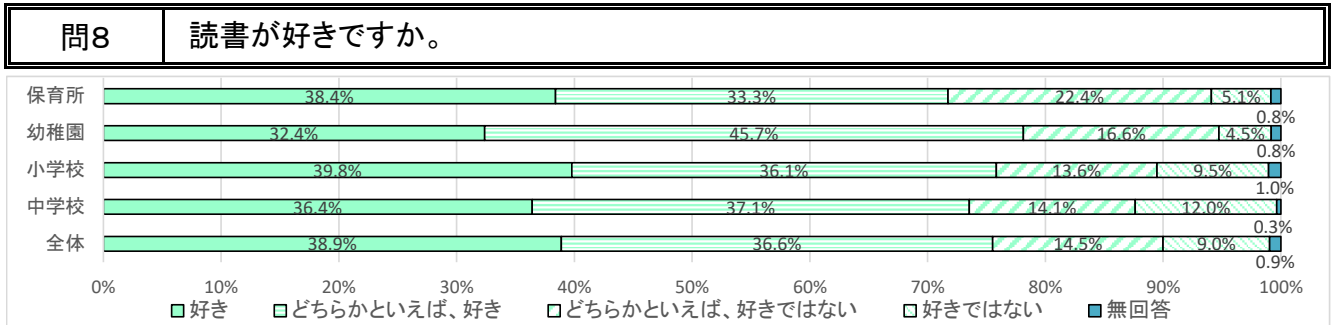


綾瀬市立図書館に関するアンケート集計結果

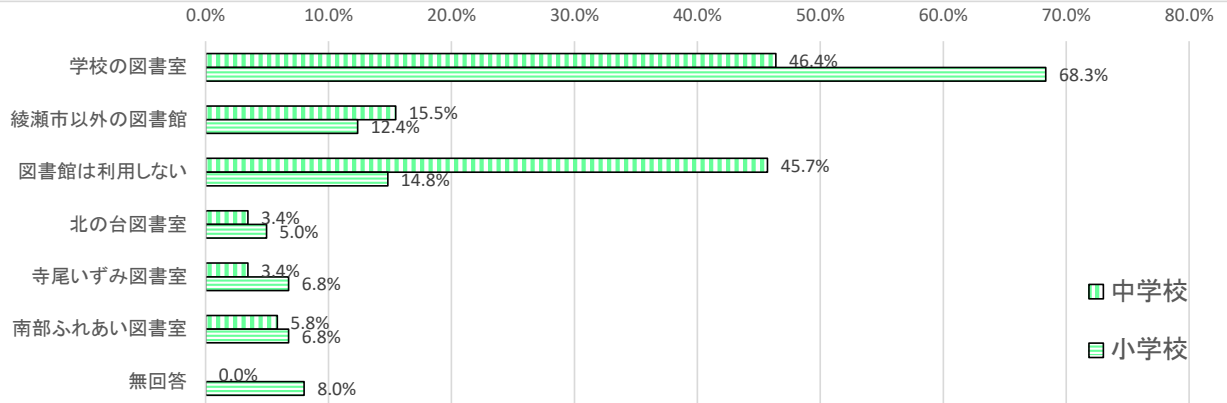
【調査概要】

綾瀬市立図書館では、「あやせゼロの日運動」の周知を行い、家庭読書を推進しています。今回のアンケートでは、図書館の利用状況や機能についても、子育て世代や小中学生のご意見を参考にするため、回答をいただきました。

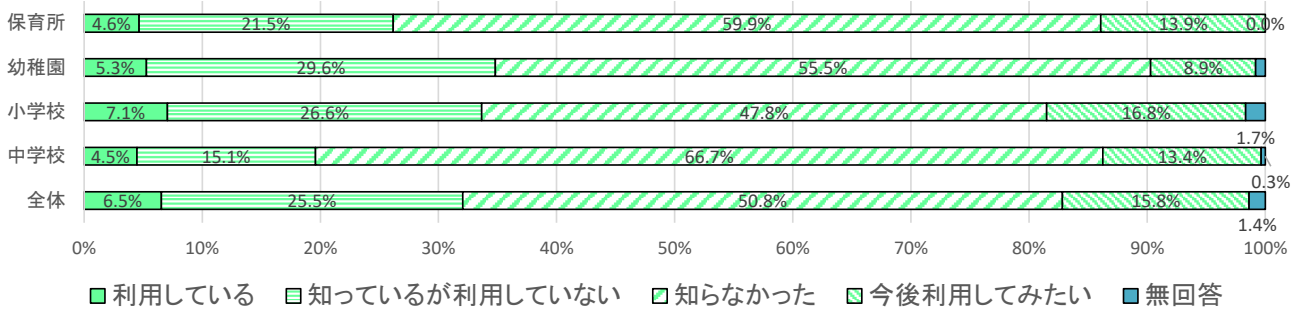
なお、対象に合わせて設問や選択肢は一部変えています。



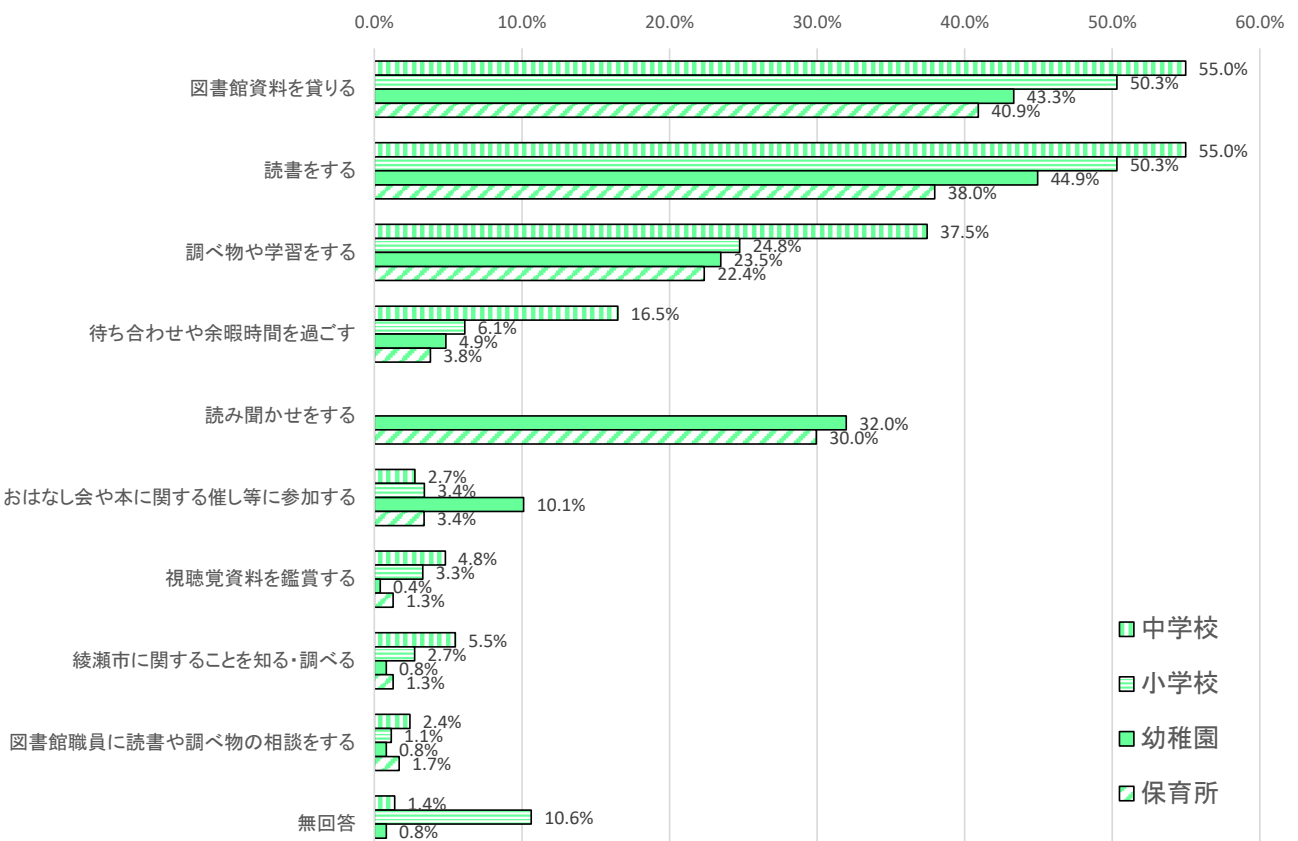
問12 綾瀬市立図書館のほかどのような図書館(図書室)を利用していますか。(複数回答)



問13 綾瀬市立図書館の電子図書館サービスを利用していますか。



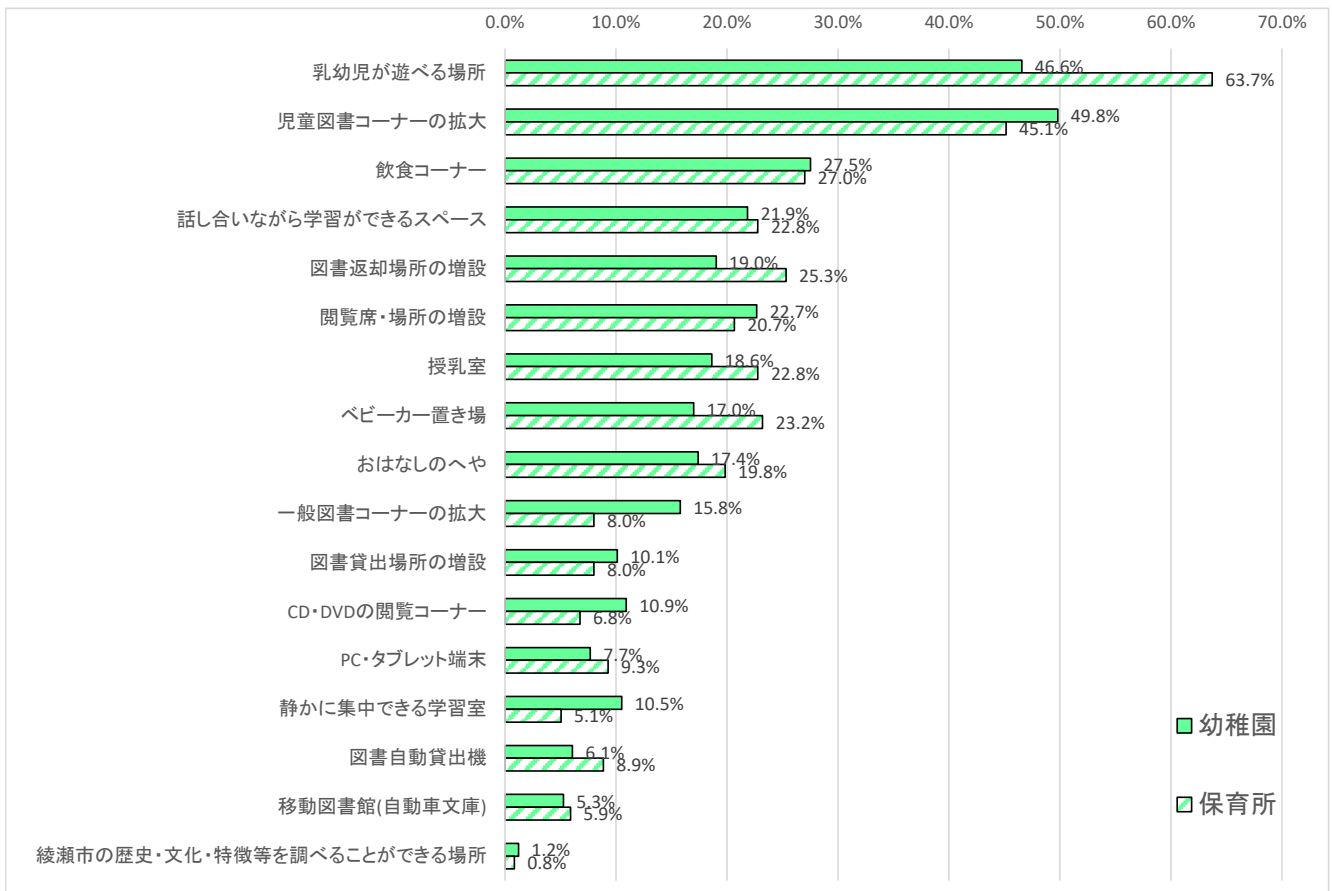
問14 図書館をどのような目的やどういうときに利用しますか。(複数回答)



※ 小・中学校のアンケートでは、選択肢に「読み聞かせをする」を設けていません。

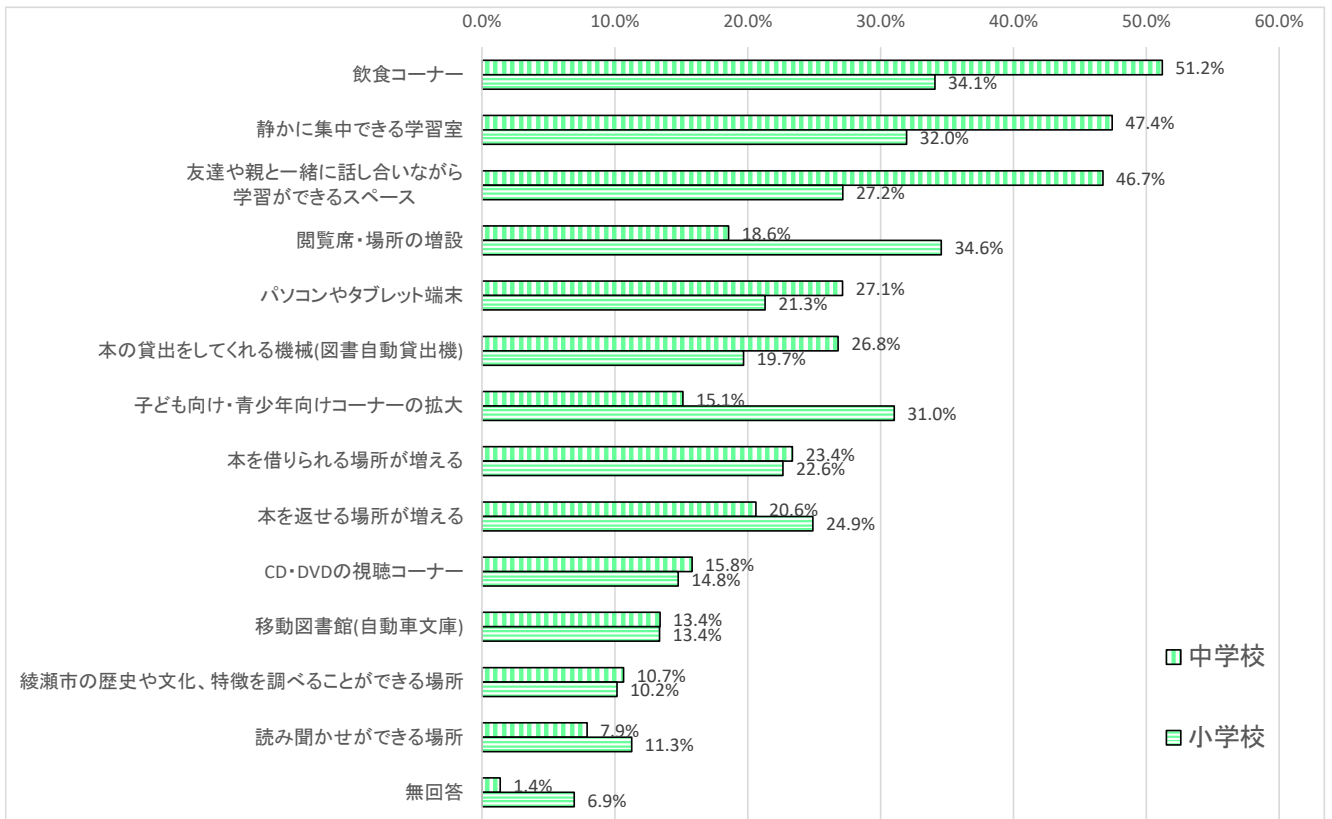
問15

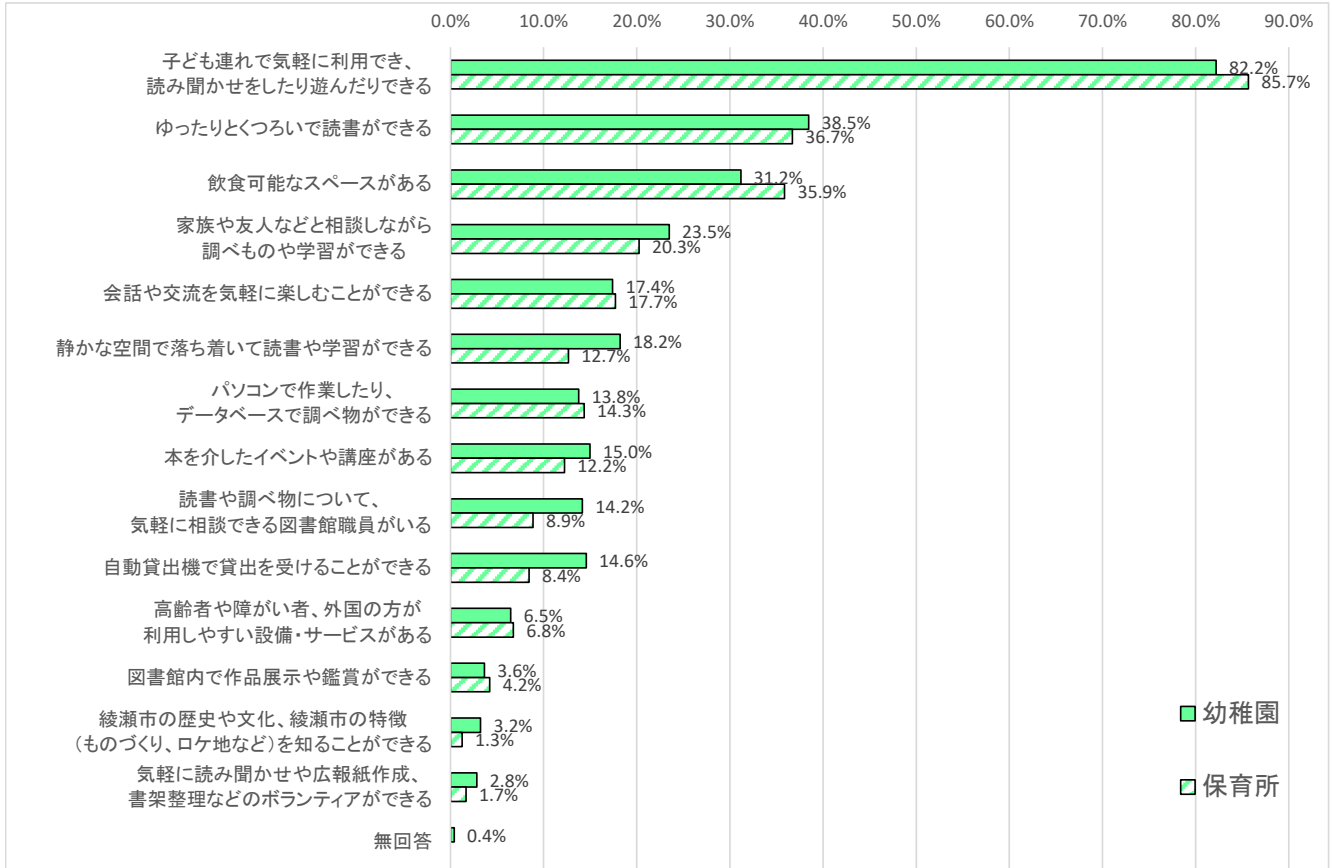
子どもと利用するうえで綾瀬市立図書館には何が必要だと思いますか。(複数回答)



問16

綾瀬市立図書館があるとよいものはなんですか。(複数回答)





※ 四捨五入の結果、合計が100%にならない場合があります。

アンケート結果から得られた課題と方向性

図書館の利用状況や機能について、子育て世代や小・中学生にアンケートを行ったところ、読書が「好き」または「どちらかといえば、好き」と答えた人の割合は、全体で75.5%と高い結果が出ました。

一方で、綾瀬市立図書館の利用頻度は、「年に数回程度」または「利用しない」と答えた人の割合が全体で83.6%と、あまり利用がされていない状況が見えました。

その理由として、保育園・幼稚園では、アクセスの問題や子ども連れでの利用がしにくい、読書習慣がないという課題が見えました。しかしながら、家で購入や保育園・幼稚園で本を借りるなどと答えた方も多くいました。図書館では、ブックスタートや保育園・幼稚園への配本などを行っていますが、様々な場所での読書環境の整備が引き続き必要です。また、小・中学生については、学校の図書室を利用している割合が、小学校で68.3%、中学校で46.4%と高くなっています。しかし、図書館は利用しないと答えた割合がいずれも2番目に高くなっています。

図書館の利用目的については、図書館資料の借用や読書が最も高く、次いで調べ物や学習が続いています。

保育園・幼稚園へのアンケートからは、子どもと利用する上で必要なものとして、乳幼児が遊べる場所や児童図書コーナーの拡大を答えた方の割合が高く、全体的に滞在しての利用ができる設備や機能を求める回答が多くなっています。また、今後の綾瀬市立図書館には、「子ども連れで気軽に利用でき、読み聞かせしたり遊んだりできる」図書館を求める回答が最も高く、いずれも8割以上の方が望んでいます。

小・中学校へのアンケートからは、飲食コーナーや静かに集中できる学習室、友達や親と一緒に話し合いながら学習ができるスペースを求める回答が多く、次いで、閲覧場所の増設、パソコンやタブレット端末を求める回答が続いており、利用方法にあわせた学習室の設置や設備が求められています。

なお、電子図書館サービスについては、全体で「利用している」人が6.5%、「知らなかった」人が50.8%となり、最も知らなかった割合が高かった中学校にいたっては66.7%にのびりました。令和4年3月に、全児童・生徒に利用案内を配付したところですが、引き続き周知を図る必要があります。

読書は、子どもたちが必要な知識や情報を習得・活用し、自立した人間として生きる力を育てるために欠くことができないものです。市では、綾瀬市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書活動の推進を図っていますが、引き続きその推進を図るとともに、本アンケート結果を参考に、さらなる読書環境の整備・充実を図っていきます。